

ひたむきに生きる人のために

# STORY BOOK

ストーリーブック・人 働く女性編

SHINKO STUDIO

〒156-0055

東京都世田谷区船橋 1-14-12

シンコーストúdio株式会社

代表 米井 亜紀子

<http://www.shinkostudio.com>

1



\*更にお読みにになりたい方は、ホームページヘインタビュー全文が記載されています。

毎日成長を見守る喜びがあるんです。すっきりと前を向いて太陽に向かって、  
ばーっと育っていく姿を見ると、心を打たれます。

中杉玲子農園 園主 中杉 玲子さん



世田谷とは思えない空の高さ。神社の鎮守の森に守られた場所に中杉さんの仕事場、中杉玲子農園はありました。敷地は決して広いとは言えないけれど、手がきれいに入って緑が美しい畑です。

## 農業を始めたきっかけは？

たまたま、農業を営みとしているお家に嫁いでしまったからです。でも、主人は農業をしていませんでした。長男が保育園に入ったのを機会に、本格的に農業という仕事に向かいあうこととなりました。最初から積極的に農業をやろうという気が特にあったわけではないのです。

## 太陽が昇ったら起きて仕事を始め、沈んだら休む

真夏は 5:00 に起床。既に午前中に 7 時間くらい働き、更に少し日が陰った 4:30 位からまた少し働きます。冬は 6:00 位に起床。太陽と共に起き、沈んだら休む、そういう仕事のスタイルです。

## 土を触っていると教わること、感じること

同じ仕事でも、子育てと同じ、農業は育てていく喜びがあります。毎日成長を見守る喜びがあるんです。すっきりと前を向いて太陽に向かって、ばーっと育っていく姿を見ると、心を打たれます。

## 子育てとの両立は、時には「あきらめる」

子どもが小さかった頃は、何しろ、時間との勝負。時間が限られているので、時間内に終わらせるように必死でやりました。また、できなかつたら、「諦める」。その「諦め」も大事だと思うんです。何かを切り捨てるって言うのも必要だと思います。でも、不思議と密度が濃い仕事できていたように思います。

## 地域でかかわるさまざまな人を巻き込んでいく

「チーム玲子」というボランティア団体があって、私をサポートしてくれているんです。それ以外にも東京農大の学生さんが手伝いに来たり、近所のおじさんが草むしりをしてくれていたりします。



Hana-no-Me[花芽]  
K18WG ネックレス・ピアス  
限定商品 (完売済)



Take-Tombo[竹蜻蛉]  
K18YG と K18WG の 2 種類  
K18YG 340,000yen (税抜)  
K18WG 360,000yen (税抜)



## チームで仕事をする際には「楽しい!」を創りだす

畑で育てた百合などを、産直の売り場で売り出して花が売れたときは、その収益だけは別の缶に入れておき、たまったらちょっとしたパーティをしようなどと決めておきます。チームで仕事をするときは、こうやって、とにかく何か「楽しい!」ということがなければいけないと思っています。以前やった企画は、お花を売って貯めたお金で、ケーキ屋さんのケーキの全種類をピースで買って、皆でたらふく食べて楽しみました。

## 収穫の後の畑の片付けが実は大変

畑で収穫した後の片付けて、あまり一般の方には分からない。でも実は、これが地味で、大変な仕事です。とうもろこしの根はすごくしっかり土に根付いていて、1本抜くだけでももうへとへと。これを、自分だけでやるんだと思ったとき畑を前にして愕然とします。

## 農業は職業の原点

農業ってやはり職業の原点だなと感じています。何も無いところから、土を耕し種をまき、「無」から「有」を作り出してしまふ。それを売って、お金ももらえる。私の仕事は、大量生産型の農業ではありません。量は多くなくとも、毎日地べたに這いつくばって野菜や土と向き合って仕事をしているからしみじみ感じるのかもしれません。

## Editor's Note

中杉さんは、お店に見えられるとき、感度のいいファッションでとてもかっこいいのです。土にまみれて仕事をしている方なんて思えない。しかし、語りかける言葉の一つ一つは親しみやすく、人や生きるものに対する優しさに溢れています。そのギャップがとても新鮮です。その背景には、たった一人で大地に向き合う強い覚悟があるでしょう。おそらく、幾度となく驚くほどの苦難を乗り越えて到達した境地だと感じます。

そして、ジュエリーに対してももきちんとデザイナーの感性や職人のもの造りの大切さを理解してください。ファッションもジュエリーに対してもその方のフィロソフィー(考え方)が出るものだと感じます。人間を磨くということは、その方の感性を磨くことなのかもしれません。

仕事と家庭と地域と自分自身。その隔たりをいちいち作らないで、全部同時進行形にしてしまう姿は、本来の職業というものの原点のように思えました。男性も、女性もなく、大地はただただ、まっすぐ向き合う人に正直に答えてくれるようです。

シンコーストウディオ 代表 米井 亜紀子



「ひたむきに生きる人のために・ストーリーブック」製作チーム  
Photographer: 永井守  
Editorial Designer: 藤平富喜代  
Web Designer: Hill 法子  
Writer, Editor: 米井亜紀子